



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

1 実践テーマ	【II・IV・V】
2 実施対象者	福島市立土湯小学校 2年（1名） 4年（1名） 6年（4名） 計6名 保護者及び地域民
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 生活・総合・体育・学活・家庭 ） ② 行事名（ 学習発表会 ） ③ その他（ 他校との交流活動 ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	地域の特色を生かし、来県・来日される方々をどのようにお迎えすればよいのかを考えることで、多様な文化を受け入れ、互いに理解し合える社会実現を学ぶ機会とする。また、スポーツの楽しさや生涯を通して運動することの大切さを感じ取ったり、目標に向けての自己実現への取組を意識したりできるような心の育成を図る。
5 取組内容	◇ 活動I ホスト国「スイス」を身近に感じよう   福島市はスイスのホストタウンである。そのスイスを自分たちが身近に感じるための活動を行った。まずはじめに、スイスってどんな国？から学習をスタートさせ、食べ物や地理、習慣や観光など児童一人一人が課題をもって調べ学習を行った。自分たちが調べた中からわかったことを全校生でまとめた。また、同じくオリンピック・パラリンピック教育を進めていた近隣学校と協力し、栄養教諭の支援を得て、食文化に触れるためにスイス料理作りに挑戦した。さらに、スイスをめぐりながらマラソンができるカードを活用し、スイスを身近に感じることができるよう取組を行った。

### ◇ 活動Ⅱ「ふくしまのおもてなし精神とボランティア」



ソフトボール女子日本代表や全国植樹祭に来県された方々のお出迎えを行い「おもてなしの心」について実践を行った。また、温泉街に位置する小学校と連携を図り「温泉サミット2018」を実施し、土湯温泉町のよさを紹介したり、2020年に向けて温泉街をどのように盛り上げるかを他校の友達と話し合ったりすることができた。さらに、近隣の小学校をお招きし、温泉街を紹介したり、案内したりするなど校外へ発信する活動も行ってきた。

玄関先には、今事業の取組が来校者に理解いただけるような掲示物を作成し、児童のみならず教職員も一体となって活動を行った。

### ◇ 活動Ⅲ「ふくしまとスポーツを楽しむ心～夢へ向って～」



東邦銀行陸上部400mH青木沙弥佳選手とともに活動を実施した。「目標をもつことの大切さやその目標はたくさんあってよいこと」や「人とのかかわりが自分を大きくしてくれること」など福島で活躍されているトップアスリートに直接お話をいただくことで児童は目を輝かせて聞いていた。その後、スタートダッシュの仕方や走るフォームなどを教えていただいた。トップアスリートと直接活動できることは貴重な時間となった。

パラリンピックチェアスキーヤー鈴木猛史選手に「足がなくても夢はかなえられる」と題して講演をしていただいた。足を失った出来事や自分を支えてくれた友達のこと、そして、車椅子生活になってからパラリンピック選手として活躍するまでについて子どもたちに分かりやすくお話いただき、自分たちも挑戦することが大切であることを学ばせていただいた。

### 6 主な成果

オリンピック・パラリンピック教育推進事業校として取り組ませていただいたことで、児童及び職員のオリンピック・パラリンピックに対する意識がさらに向上した。また、自分たちの地域がオリンピック・パラリンピックに強く結びついていることも実感できた。さらに、他国や異文化に興味・関心をもつことができた。これから

	<p>開催されるオリンピック・パラリンピックに対しての意識が今まで以上に高まったといえる。</p> <p>昨年度よりおもてなしについての学習を進めてきたことで、ゲストティーチャーをお招きしたときや他校との交流場面においても積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。自らはたらきかけることがおもてなしであることを意識できるようになってきたことは大変嬉しいことである。</p> <p>トップアスリートを招いての講話・実技指導は、オリンピック・パラリンピックを目指す選手から目標の立て方や目標に向かって取り組む姿などを直接聞くことができ、児童のこれからの生活に十分生かすことができるものとなった。選手に対する憧れや努力することの大切さ、夢をもつことのすばらしさを実感できた。また、実技指導を行っていただいたことで運動に対する楽しさを感じるようになってきたようである。</p> <p>3つの活動を通して、オリンピック・パラリンピックをより身近に感じることもできたとともに、自分たちの学校生活にも改善を図りながら生活を送ることができる機会となった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小規模学校の特色を生かし全校生で活動に取り組んできた。</li> <li>・ 地域の特色を生かし、人を迎える立場としての学習を進めてきた。</li> <li>・ 自分たちが住んでいる福島で活躍している方をお招きした。</li> <li>・ 多くの方々とかかわることができる機会を増やし、自分たちから発信する活動を設定してきた。</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック教育推進校との協力を得ながら活動に取り組めた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリンピック・パラリンピック教育を進めるための教育課程への位置付けや指導計画の作成</li> <li>・ 計画的な予算執行</li> <li>・ 外部講師招聘についてのコーディネート及び連携</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック教育を進めるための校内組織の在り方</li> <li>・ オリンピック・パラリンピック教育と教科との関連の図り方</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域との連携を生かしながらオリンピック・パラリンピック教育を進める。</li> <li>・ 各教科及び特別活動等との関連を図りながら進める。</li> <li>・ 児童にとってオリンピック・パラリンピックに対しての思いがより高められるような活動の実施を行う。</li> <li>・ 継続的な取組と広がりのある活動を進めていく。</li> </ul>